

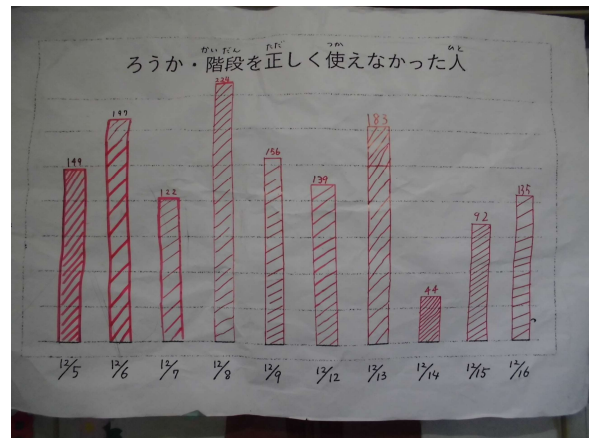


## ろうか、階段は安全に歩こう

ろうかや階段を走ったり左側を歩いていたりすると、転んだりぶつかったりして、大きなけがにつながります。「ろうかは歩こう」「右側通行」の呼びかけやポスター掲示などしてきましたが、危険な行動をしている人が減りません。そこで、児童会の役員さんと代表委員さんが、ろうかと階段に立って声かけをしながら、正しく使えていない人の数をカウントしてグラフ化することで、自分の行動を自覚して直してもらおうという取組を考えてくれました。

取組を始めてすぐは全く改善がみられなかったのですが、5日目ぐらいから少し意識が変わってきました。取組が終わってからも、きちんと歩いている人が増えました。児童会役員さん、代表委員さんありがとうございました。

走る人は減りましたが、みんながきちんと歩いてこそ初めて安全な学校といえます。さらなる改善策を考えていきます。



## おおそうじ 大掃除ですっきり 12/20 (火)

いつもの掃除より時間をのばして30分間、大掃除を行いました。ふだんの掃除ではなかなかすることができないところまできれいにしてくれました。子どもたちが、きれいにできるところをみつけて、自主的に活動する姿がみられました。

椅子のテニスボールのほこりとり



高い窓のレールの汚れふき



手洗い場の壁ふき



掃除ロッカーの中の片づけ



ゴミ箱の汚れ落とし



# スマホやゲーム機等の使い方にご注意を！

最近、小学生がスマホのアプリやオンラインゲームで友達とトラブル（悪口の書き込み、仲間外し、課金、写真や動画を勝手に送る等）になることが多発しています。本校でも、よく似た事例が起っています。お子さんのスマホの使い方、オンラインゲームのやり方については保護者の方で把握していただき、使い方によっては指導していただきますようお願いいたします。

また、スマホ等デジタル機器の利便性は大きいですが、使い方によっては生活習慣や健康に悪影響を及ぼす危険性もあります。各種アンケート結果から本校児童の使用時間が長いことは大きな課題です。下の話も参考に、使わせ方を考えてみてください。

2010年、アップルの創業者スティーブ・ジョブズは最初のiPadの製品発表会を開く。「インターネットにアクセスできる、比類なき、驚くべき、特別な可能性をもたらす」画期的商品だとジョブズは口を極めて絶賛した。そのしばらく後、ニューヨーク・タイムズ紙の記者がジョブズにこんな質問を投げかけた。

「自宅の壁は、スクリーンやiPadで埋め尽くされてるんでしょう？」

するとこんな答えが

「iPadはそばに置くことすらない」

ショックを受けている記者にジョブズは続けて、iPadはおろか、すべてのデジタル機器について、わが子のスクリーンタイム（視聴時間）を厳しく制限していると伝えたのだ。

こうした態度をわが子に示しているIT企業トップはジョブズに限らない。マイクロソフトのビル・ゲイツも子どもが14歳になるまでスマホを与えていない。

アップルの幹部トニー・ファデルはこう言っている。

「冷や汗をびっしょりかいて目を覚ますんだ。僕たちはいったい何を創ってしまったんだろうって。うちの子供たちは、僕がスクリーンを取り上げようとする、まるで自分の一部を奪われるような顔をする。そして感情的になる。それも、激しく。そのあと数日間、放心したような状態なんだ」

フェイスブックの「いいね」機能を開発したジャスティン・ローゼンスタインなどは、「依存症ではヘロインに匹敵するから」として、本来は保護者がわが子の使用を制限するためのアプリを自身のスマホにインストールした。

【スウェーデンの精神科医：アンデシュ・ハンセンの著書『スマホ脳』からの引用】

## 2学期が終わりました。

本日で、2学期が終わりました。2学期の始業式では「友達と関わって学んでほしい」という話をしたのですが、子どもたちはとてもよくできていたと思います。行事はもちろん、普段の授業でも友達と意見を交わしながら学んでいました。日常生活も、友達と協力して仕事をしたり、工夫して遊んだりする姿が学校中でたくさん見られました。

お子さまから、2学期がんばったことをたくさん聞いてあげてください。そして、たくさんほめてあげてください。また、年末年始で親戚の方に会う機会があれば、そこでも、がんばった話を話題にしてあげてください。そして、いっぱいほめてもらってください。

保護者の皆様、地域の皆様には、2学期もご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。健康で、けがや事故のない休みをお過ごしください。